

受賞者一覧

(敬称略・順不同)

文部科学大臣賞

東洋大学附属姫路高等学校 地域活性部
PROJECT TOYO

(兵庫県)

優秀賞

【小・中学生の部】 姫路市立安富中学校
安富町花あじさい復活プロジェクト (兵庫県)

【高校生の部】 徳島県立小松島高等学校
南小松島駅活性化プロジェクト (徳島県)

【大学・一般の部】 # ひめじでごみひろい (兵庫県)

特別賞

■ 世田谷区立桜丘中学校 園芸部 (東京都)

■ 徳島県立城西高等学校 植物活用科
阿波藍専攻班 (徳島県)

■ 鈴鹿大学ICC 国際交流サークル
留学生による地域貢献活動 (三重県)

☆第20回SYDボランティア奨励賞には、30都道府県より[小・中学生の部]21件、[高校生の部]45件、[大学・一般の部]25件の計91件の応募があり、選考委員会において厳正なる選考の結果、上記受賞者が決定されました。

SYDは、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて120年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。

文部科学大臣賞

東洋大学附属姫路高等学校 地域活性部

PROJECT TOYO

(兵庫県)

2019年、「地域のために何かしたい」という思いを持つ高校生6名から始まりました。地域農家への聞き取りを通して耕作放棄地や後継者不足といった課題を把握し、「耕作放棄地の活用」を活動の基点とし、そして「地域の活性化」と「住みやすい持続可能な地域社会の実現」を二大目標に、地域の遊休資源を活用し、多角的に社会課題の解決に取り組んできました。

環境面では、農薬や化学肥料を使わない環境負荷の低い農法を実践。廃棄食材を肥料として再利用し、土壌改良をすることで、生物多様性の保全にも貢献しました。また、除草剤を使わない耕作の重労働を軽減するため、除草ロボットの開発にも着手し、技術革新にも挑戦しています。収穫後の稲わらを地域行事に寄付するなど、資源の地域内循環も大切にしてきました。このように耕作放棄地を整備・活用し荒廃地を解消することは、街の美観維持だけでなく、害獣の住み着き防止に貢献し、安全・安心の街づくりにも寄与しています。

経済面では、耕作放棄地を借り、姫路の伝統野菜「姫路若菜」を栽培し、地元企業と連携して缶詰などの特産品を開発しました。地産地消と添加物削減にこだわり、地域経済の活性化に寄与しました。また、鹿肉缶詰の製作・販売を通じて、姫路猟友会の活動を広めました。さらに、姫路の伝統産業である革細工に着目し、皮革廃材を活用した製品づくりを通じて、資源のアップサイクルと文化継承にも取り組みました。

社会面では、地域住民との田植えや稲刈り体験、SDGs 学習会を行い、農業や資源の大切さを伝える地域全体の多世代教育交流を深め、持続可能な社会づくりへの意識向上に貢献しました。また、学校内外でのフードドライブ活動を行うことで社会貢献の意識を深く浸透させることができました。本活動を通じ、生徒の調査期間などは地域の方は草刈りを手伝ってくださり、地域の方が怪我で作業ができない時は、生徒が自主的に草刈りを行う等、地域住民との相互扶助の関係を築き、共助の精神を育んできました。

卒業生はこの活動を通じ、不動産、希少動物保護、防災、教育など多様な分野で社会貢献を志すようになりました。現在は7年目を迎え、卒業生も担い手として加わり、活動はさらに広がりを見せています。今後も未来の高校生が「人や地球を笑顔にする種まき」をしてくれるよう自由な発想に基づく挑戦の機会を作り続けます。



籾種から米を栽培



耕作放棄地を活用した稲作、地域の経験者からはざかけを学ぶ



SDGs学習の一環で地域の方と稲刈り体験



地域の経済を活性化させるため販売体験



地産地消・無添加を可能な限り追求した特産品開発。姫路の鹿革を使用した作品を製作



兵庫県立大学で除草ロボットを開発中